



基礎学力を十分に鍛えてほしい

学長 竹葉 剛

基礎学力というのは、明確な定義があるわけではないが、ここでは「読み書きそろばん」の能力であるとしておく。「読み書き」は言語の運用能力（言語系）であり、「そろばん」は物事の数量的把握能力（非言語系）である。

言語運用能力が知的な作業をする上でなぜ重要かといえば、人間の活動の多くは言語を土台にしているからである。そのため、言語運用能力は、コンピューターでいえばOSに相当する機能であると言える。ただし、パソコンを買えばOSはすでにインストールされているが、人の脳の神経回路は生後の外界からの刺激に応じて形成されるので、OS機能を発揮するには、言語を繰り返し使用することにより、言語の運用を処理できる神経回路系を形成する必要がある。

日本語の運用能力は十分と思っている高校生は多いと思うが、長い文章、例えば文庫本や新書を一冊読んだとき、その論理展開を頭の中に描くことができるだろうか。物事の間接関係を言語で表現し分析できる作業場が頭の中にできているだろうか。本を読むのに時間が多くかかる人は、まだ日本語の運用に慣れていない可能性がある。言語運用能力は、国語に限らずいろいろな分野の本を多く読むことによって鍛えられる。

また、書く練習も大切である。何かの作業をしたとき、簡潔で論理的な報告書が書けるだろうか。新聞記事等も、自分で書く場合その記事のように書けるか、という視点で読むことも有効である。もちろん、日本語だけでなく、英語の運用に慣れておくことが望ましい。言語運用能力は、繰り返し使用することによって初めて身につく基礎学力である。

一方、物事を数量的に把握する非言語系の処理能力も基礎学力として重要である。物事の量的な変化や関連する物事との相互関係を頭の中にイメージとして描く能力は、数学などの基本問題を解くことによって鍛えられる、といわれている。言語系と非言語系とは相互に情報を交換しながら「考える」という機能の土台を担っている。

現在の大学受験では、知識が求められていると思われがちであるが、基礎学力が十分に鍛えられていれば、知識を体系的に得てそれらを活用することは比較的容易である。そして、論理的な思考力や課題解決能力なども、基礎学力がしっかりしていれば、体験や経験を積みごとに鍛えられていく。

受験生の皆さんが、少人数教育を特色とする本学に入学され、共に学びあえるようになることを期待している。



目次

学長挨拶	1	入試科目別アドバイス	
入試特集		英語・国語	12
本号の構成と利用ガイド	2	日本史・世界史	13
入学試験日程	2	生物・化学	14
文学部		物理・数学	15
学部長からのメッセージ	3	就職活動支援	16
平成22年度入学者の状況	3	キャンパスライフ	
各学科紹介	4	在学生の声	17
公政策学部		クラブ・サークル紹介	18
学部長からのメッセージ	6	新歓夜祭開催	19
平成22年度入学者の状況	6	卒業生の声	20
各学科紹介	7	ニューフェイス	22
生命環境学部		イベント情報	23
学部長からのメッセージ	8	教員奮闘記	24
平成22年度入学者の状況	8	トピックス	24
各学科紹介	9		

入試特集

京都府立大学広報委員会

平成20年度から京都府立大学は京都府公立大学法人京都府立大学となりました。学部学科も改編され、文学部・公共政策学部・生命環境学部の3学部体制で新たなスタートを切りました。今年度はその改編3年目にあたります。

この冊子は、主として京都府立大学を受験しようと考えている受験生の皆様に読んで頂くことを念頭に置いて編集されています。受験生の皆様にとって必要な情報を、できるだけ簡潔・的確で、かつ親しみやすい形で提供できるように、全学部学科の関係教員がアイデアを絞り、手作りで作成しました。入試に直接関わる情報に始まって、在学生からのメッセージ、キャンパスライフ、卒業生の声など、多彩な内容になっています。ぜひ最後の頁まで読んでみてください。少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

本号の構成と利用ガイド

本号は入試に関する部分とそれ以外の関連記事の2つの部分から構成されています。

ただし、科目別記事は予想問題ではありませんので、あくまでも参考資料としてご利用ください。

■入試関係の情報■

学部学科の紹介、各種入試情報を掲載しています。一般入試（前期・後期）に関しては、センター試験と二次試験との合計点などが示されています。学科によって、センター試験と二次試験それぞれの試験科目と配点とが異なる場合がありますので、ご注意ください。また、推薦入試やAO入試もあります。ただし、AO入試については、実施する学科と実施しない学科とがあります。

■大学生活■

入学後の大学生活についてご案内する部分です。在学生からは、これから入学してくる後輩へのメッセージやアドバイスが寄せられています。その他、クラブ・サークル活動の紹介、就職活動支援や就職状況、卒業生の声、在学生の活躍ぶり、等が紹介されています。京都府立大学でのキャンパスライフに、一足先に触れてみてはいかがでしょうか。

なお、入試に関する詳細は、必ず「選抜要項」で確認するようにしてください。

入学試験日程

出願資格選抜方法等詳細は学務課入試担当（Tel075-703-5144）へお問い合わせください。

一般選抜

- | | | |
|---|-------------------|-----------------------|
| 1 | 出願期間（第2次試験願書受付期間） | 平成23年1月24日（月）～2月2日（水） |
| 2 | 第2次試験の実施日 | 前期日程試験 平成23年2月25日（金） |
| | | 後期日程試験 平成23年3月12日（土） |
| 3 | 合格者発表日 | 前期日程試験 平成23年3月7日（月） |
| | | 後期日程試験 平成23年3月23日（水） |

特別選抜（推薦入試）

- | | | |
|---|--------|------------------------|
| 1 | 願書受付期間 | 平成22年11月1日（月）～11月9日（火） |
| 2 | 試験実施日 | 平成22年11月27日（土） |
| 3 | 合格発表日 | 平成22年12月10日（金） |

特別選抜（AO入試）

- | | | |
|---|--------|------------------------|
| 1 | 願書受付期間 | 平成22年9月14日（火）～9月24日（金） |
| 2 | 試験実施日 | 平成22年11月27日（土） |
| 3 | 合格発表日 | 平成22年12月10日（金） |

文学部

学部長からのメッセージ

文学部長 櫛木 謙周



文学部では、言語や文学、歴史、文化などを学びますが、かつて日本の首都であった京都の地は、それらが長年にわたって育まれてきたところです。また、京都は、私たちの文化を世界に発信してゆく拠点でもあります。本学の文学部は、このような京都に立地する公立大学として、地域の文化を大切に、それを次世代に伝えてゆくとともに、国際的な視野にたって活躍できる人材の育成を重視しています。

日本・中国文学科では日本語学・日本文学・中国文学、欧米言語文化学科ではイギリス・アメリカ・ドイツなどの言語や文学・文化を学ぶことができます。また、前者には和漢比較文学と京都文学・京都文化学、後者には日英翻訳文化などのユニークな分野も設けられています。歴史学科では、日本史・日本文化史、東洋史・東洋文化史、西洋史・西洋文化史、文化遺産学（考古学・歴史地理学・文化情報学）のコースが準備されています。

各学科とも、それぞれの分野の深い知識を得ることができますが、小さな専門に閉じこもらず、広い視野から学べるようになっていきます。さらに、学科の枠を越えて履修できる「京都文化学コース」「英語コミュニケーション・プログラム」「文化遺産学プログラム」などがあり、自分の専攻する分野以外にも系統的な学習ができます。

いずれの学科においても、多彩な講義のほかに、少人数の演習が開講されています。そこでは、文学作品・研究文献・史資料などを徹底的に読み込んで論を鍛え、最終的に卒業論文を書くことができるように指導しています。

このたび、文学部研究室・演習室と大学附属図書館、京都府立総合資料館、国際京都学センターを一体化した建物を新築する計画が発表されました。完成は少し先ですが、上に述べたような文学部の教育・研究環境はさらに充実してゆくことになるでしょう。

平成22年度入学者の状況

学部	学 科	日程	募集人員 人	志願者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競争 率 倍
文学部	日本・中国文学科	前期	20	128	120	28	24	4.3
		後期	4	75	44	4	4	11.0
		推薦	6	20	20	6	6	3.3
	欧米言語文化学科 *	前期	18	109	94	24	18	3.9
		後期	4	94	56	6	3	9.3
		推薦	6	32	32	8	8	4.0
		A O	2	12	12	3	2	4.0
	歴史学科 *	前期	25	186	169	31	25	5.5
		後期	7	110	61	10	9	6.1
推薦		6	20	20	6	6	3.3	
A O		2	5	5	2	2	2.5	

(注) *欧米言語文化学科のA O入試は平成23年度入試より、歴史学科のA O入試は平成24年度入試より廃止されます。

各 学 科 紹 介

日本・中国文学科

日本・中国文学科の一番大きな特徴は、日本と中国の文学や語学に関するあらゆることが自由に学べることです。日本と中国、それぞれを徹底的に深く探究していくとともに、お互いの強い関連性も追究していきます。高校までは現代文・古文・漢文と科目が分かれています。本学科ではそれらが渾然一体となった、大きな文学の世界、ことばの世界として皆さんの前に展開します。

例えば『源氏物語』には、中国の詩人白楽天の「長恨歌」の表現やそこに詠われた玄宗皇帝と楊貴妃の悲劇の物語が様々な形で取り入れられていることがわかります。また『水滸伝』などの中国の小説が、江戸時代の『南総里見八犬伝』などの小説

に大きな影響を与えているばかりが、それら中国の小説で用いられる言葉が次第に日本でも定着し、現代語にまで続いている例にも気づきます。さらに、交流協定を結んでいる中国の西安（長安）にある西安外国語大学から教員を招き、本格的に中国語を学べる環境も整えています。そのようななかで「勉強」という熟語が日本と中国とで意味が違うといった新鮮な驚きも味わえるでしょう。

このように日本語・日本文学と中国語・中国文学との垣根を取り払い、それぞれの独自性と相互の関連性を追究していく研究方法は、学界からも高く評価されています。

本学科のもう一つの大きな特徴は、京都文化、京都文学の学びです。日本の古典文学はそのまま京都文学と言えるほどに、京都は文学の中心でした。そこで育まれた茶道や華道などの文化や、能・狂言、歌舞伎・文楽などの芸能も、文学とともに京都の魅力を形作ってきた重要な存在です。それら京都文化・京都文学を学ぶ分野を充実させながら、京都府民はもとより全国、そして世界に向けて京都の魅力を発信する活動を続けています。

本学科の教員はみな熱心な指導で、学生からの評判も上々です。学生同士も上級生と下級生の隔てがなく、みな和気藹々と勉強に、部活に、就活に取り組んでいます。受験生の皆さんも是非本学科の仲間になることを目指してがんばってください。ともに学びましょう。



合宿研修旅行（鶴林寺）

欧米言語文化学科

欧米言語文化学科は、コトバを学び、コトバを通して文化を学ぶところです。また、コトバの仕組みや、コトバを別のコトバに移すときの問題を考えるとところです。

欧米言語文化学科でおもに扱っているのは、英語とドイツ語です。イギリス映画やアメリカ音楽を楽しみながら、イギリスの歴史やアメリカの社会について、考えたり発表したりします。また、映画や小説を通して、ドイツ・オーストリアの歴史や思想などについて学びます。

欧米言語文化学科では、コトバそのものを学ぶこともできます。新しくドイツ語かフランス語を学ぶほか、英語の仕組みや、世界中のさまざまな英語について勉強できます。

また、コトバを比較して翻訳の問題を考えたり、文化の違いについて考えてみる授業もあります。そして、京都を中心とする日本の文化を欧米の文化と比較すると何が見えてくるか、そういうことを考えて発表する授業もあります。



ノーステキサス大学からゲストを迎えて

欧米言語文化学科には、ほかにも、英語・ドイツ語のスピーキングやリスニング、ライティングの授業がいくつもあります。映画を見たり、音楽を聴いたりするだけでなく、たくさん本を読んだり、いろんなテーマで発表したり、ビデオを撮って英語でナレーションをつけたり、いろんな体験ができる授業があります。授業以外にも、アメリカの大学生と交流する特別プログラムなどがあります。

英語やドイツ語を学び、欧米の文化を学ぶ。欧米の文化を学んで、

日本・京都の文化を見直す。いろんな英語や英語の仕組みを知って、英語をもっと使えるようになる。それが欧米言語文化学科です。

付け加えると、コトバとは、人間が持っている最高の能力で、最大の財産だと言われています。ということは、欧米言語文化学科でみなさんは、人間の一番すばらしいところについて考え、自分の最高の能力を生かせるようになるのです。私たちと一緒に、楽しく、真剣に、コトバを学び、コトバから学びに来てください。

歴史学科

歴史学科では、日本、東洋、西洋の政治、経済、思想、文化など、さまざまな分野についての歴史を研究しており、扱う文献も多岐にわたっています。それに加えて、文化遺産を対象として考古学、歴史地理学、文化情報学などの方法による研究も進めており、幅広い歴史事象を扱うことが可能になっています。したがって、入学後には専門的な史料の読解力を身につけ、あるいは考古学や地理学の方法をマスターし、オリジナリティの高い卒業論文の作成に結実しています。そして、それぞれの専門分野に最初から分かれるのではなく、幅広く歴史の勉強ができるようになっているのも特徴で、結果として、より高い視野から歴史、そして現代社会を見渡すことができるようになっています。また、学外での活動も活発で、史料整理や考古学調査、地理学調査などを頻繁におこなっており、実際に地域の中から歴史を考えるという経験を積むことができます。

京都という歴史と関わりの深い場所に立地しているため、全国から学生が集まってきており、また専門分野の垣根が低いことから、学生たちの交流が活発におこなわれています。このような環境は、歴史を広く深く学ぶためにたいへん重要だと思えます。教員との距離も近く、調査や合宿などを通して、研究の切り羽をじかに感じることもできるのではないかと思います。卒業後は大学院に進学する学生も多く、その後には学芸員などの専門職に就職する者も少なくありません。また、公務員や教員、あるいは出版業界などで歴史の知識を活かして仕事をしている卒業生も数多くいます。

歴史学科への志望動機としては、歴史が好きということがまずあるかもしれません。しかし、学問として歴史を追求することには、さまざまな困難があることも事実です。その困難を経て体得した歴史をみる見方こそ、実社会を生き抜く力となることはまちがいありません。皆さん、歴史学に身を委ねて高く飛翔してみませんか。



福知山市における古墳の調査風景

平成23年度入学試験 募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員 (人)					合 計
		一般選抜		特別選抜			
		前期日程	後期日程	推薦入試		AO入試	
府内	全国			府内			
文 学 部	日本・中国文学科	20	4	6	—	—	30
	欧米言語文化学科	18	4	8	—	—	30
	歴 史 学 科	25	7	6	—	2	40
公共政策学部	公 共 政 策 学 科	30	8	10	2	—	50
	福 祉 社 会 学 科	30	8	10	2	—	50
生命環境学部	生命分子化学科	20	5	3	3	—	31
	農学生命科学科	28	6	* 7	* 7	—	48
	食 保 健 学 科	18	—	5	—	2	25
	環 境 ・ 情 報 科 学 科	20	—	5	—	—	25
	環 境 デ ザ イ ン 学 科	25	5	10	—	—	40
	森 林 科 学 科	20	6	* 6	3	—	35

(注) *は、特別枠1を含む

公共政策学部

学部長からのメッセージ

公共政策学部長 小沢 修司

私たちの学部は「福祉社会をめざし公共政策を拓く」という理念を掲げていますが、この理念は、100年に一度と言われる世界同時不況や金融危機が進行し、雇用や暮らしが破壊され、先行き不透明な社会システムの中で閉塞感が広がる今日にあって、ますます真価が求められてきていると実感しています。人々の幸せ・福祉を実現する社会を、従来の「常識」や「通念」にとらわれず、「新しい公共」のあり方を探りいろいろな人々との協働の取り組みとして実現していくこと、これが私たちの学部が目指すものです。

公共政策学部は、社会科学系と福祉系・人間系の2つの学科から構成されています。

公共政策学科は、住み良い地域や社会を作ろうという国や地方の公務員、NPO・NGO、社会貢献を行う民間企業で働く人材、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材を養成します。未来志向型の「公共政策」を切りひらきます。

福祉社会学科は、福祉や医療の現場で働くソーシャルワーカー、家庭裁判所調査官・法務教官などの国家公務員や民間の福祉・生涯学習・教育・相談援助の仕事に就く人材など、社会や地域における人間形成の担い手を養成します。

いずれの学科でも、1回生から4回生に至るまで演習科目を配置して、対話・討論する力などいろいろな人々との協働を創り上げる力を身につけます。また、それぞれの学科での特徴ある学び以外にも、学科の枠を超えて、より柔軟に幅広く問題意識に添った学びができる工夫（副専攻制度）も準備しています。

公務員試験や社会福祉士の合格率で他大学に優れる実績を誇っている本学部ですが、少人数教育の強み、定評ある教員の面倒見の良さをいっそう発揮し、チャレンジングな君たちを応援します。



公共政策学科 「市民参加論」授業風景



福祉社会学科 「心理学実験」授業風景

平成22年度入学者の状況

学部	学 科	日程	募集人員 人	志願者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競 争 率 倍
公共政策学部	公共政策学科	前期	30	108	101	37	33	2.7
		後期	8	60	31	9	9	3.4
		推薦	12	39	39	14	14	2.8
		留学	0	1	1	1	1	1.0
	福祉社会学科	前期	30	93	91	35	32	2.6
		後期	8	31	17	8	8	2.1
		推薦	12	34	34	12	12	2.8

各 学 科 紹 介

公共政策学科

公共政策とは、「民間部門では解決できない社会の課題に対して、政府・地方自治体などが主体となり、人々の福祉を増進させるために立案される政策や計画など」を意味します。さらに近年では、NPO(非営利団体)など、人々の自主的活動を基盤とする団体も、公共政策の主体として注目されています。だからといって、民間企業等に就職を考えている人にとっても縁遠いことでは決してありません。

実際、私たちの日常の暮らしや経済活動を振り返ってみても、民間部門が提供するサービスであっても、何らかの公共的規制と無関係なサービスはないといつてよいでしょう。日本の基幹産業である自動車産業の存立が、公共政策として大量の道路が建設されることと不可分であることなどが、その一例といえます。

したがって本学科では、政府や地方公共団体だけでなく、個人や企業、民間団体なども参画していくことができる公共政策を立案できる人材の育成をめざしています。そのために、まず、公共政策の基礎となる経済学、法律学、政治学など基本的な学問をしっかりと身につけていただきます。さらに、4年間にわたり充実した演習科目を配置していること、そして京都府、京都府内外の市町村、NPOなどと連携して、政策形成の現場を体験していただくための「公共政策実習Ⅰ」および「公共政策実習Ⅱ」を設けていることも、本学科の重要な特徴となっています。



基礎演習風景

福祉社会学科

本学科は、福祉社会の実現をめざし、研究・教育を通じて、そのための道筋や条件を明らかにするとともに、それを実践的に担う専門的な人材を養成する学科です。

研究・教育の基盤となる学問領域は、社会福祉学、社会学、教育学、心理学などであり、これらの学問の問題意識・方法・成果に学びながら、福祉社会の具体像を明らかにしていきます。

卒業生の進路の特徴は、社会福祉や医療の現場で活躍するソーシャルワーカー、家庭裁判所調査官、法務教官、保護観察官など厚生保護と総称される分野の職員、児童福祉関連施設の職員、学校教員および社会教育や生涯学習関連施設の職員など、専門性をもった職業が多いことです。

もちろん大学院へ進み、より高度な専門性を身につけたり、それぞれの学問分野の専門家となって研究に従事する道を歩む人々もいます。

本学科には全国から、人間の福祉や社会連帯のあり方、人間形成と発達・心理・教育の関係についてなど、多様な問題関心をもった、個性的で優秀な人々が集まって来ています。

1回生の入門演習から始まって、卒業論文の完成に至るまで、学習・研究の中心はゼミです。また進路に応じて、社会福祉実習、教育実習など、様々な実習や現場体験、社会体験が用意されています。

自然に恵まれ、わが国を代表する歴史的文化に囲まれた洛北の地で、妥協なく学問に励もうではありませんか。意欲と志のある皆さんを待っています。

生命環境学部

学部長からのメッセージ

生命環境学部長 田中 和博

Do you Kyoto? という言葉を聞いたことがありますか。直訳すると「あなたは京都していますか?」ということになりますが、「環境にいいことしていますか?」という意味です。1997年に第3回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）が京都で開催され『京都議定書』が議決されたことから、こうした言葉が使われるようになりました。京都府立大学生命環境学部は、国際的な環境都市である京都で、グローバル（世界的かつ地域的）な視点から「生命」と「環境」について基礎から応用までを一貫して学習できる、先進的な教育体制を整えています。



「生命」と「環境」は相互に作用をしあう関係にあります。今や人類の活動規模が大きくなりすぎて環境に及ぼす影響が至る所で問題になっています。人類の生活や生存に関する諸課題として、地球温暖化、生物多様性の減少、動物の感染症、自然災害、バイオエネルギー、食料自給、遺伝子組換え、食の安心・安全、食と健康、ナノテクノロジー、エコライフ、情報技術、それに地域社会の持続的・内発的な発展などをあげることができますが、いずれも生命環境学部が教育・研究課題として取り扱っている領域です。

生命環境学部は生命分子化学、農学生命科学、食保健学、環境・情報科学、環境デザイン学、森林科学の6学科で構成され、生命現象の解明と応用、食と健康、食料の持続的生産、安全性や食育について学べます。また、健康的・文化的な生活を支える住まいと建築、都市と地域、さらに森林を始めとする自然環境から地球環境について学ぶとともに、関連する情報を解析し応用するための知識と技術を習得することができます。

生命環境学部は実験・実習を多く取り入れた体系的なカリキュラムを提供するとともに、少人数教育の特色を活かして、「世界に通用する専門能力と技術力」「課題解決の道筋を見いだす能力」「広い視野と柔軟な思考力」をもつ学生の育成に努めています。

平成22年度入学者の状況

学部	学 科	日程	募集人員 人	志願者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競 争 率 倍
生 命 環 境 学 部	生命分子化学科	前期	20	72	65	26	24	2.5
		後期	5	34	34	8	5	4.3
		推薦	6	30	30	7	7	4.3
	農学生命科学科	前期	28	61	59	32	30	1.8
		後期	6	29	29	9	7	3.2
		推薦	14	60	60	14	14	4.3
	食 保 健 学 科 *	前期	18	45	45	19	19	2.4
		推薦	5	25	25	5	5	5.0
		A O	2	8	8	2	2	4.0
	環 境 ・ 情 報 科 学 科	前期	20	94	92	23	22	4.0
		推薦	5	10	10	5	5	2.0
		前期	25	54	51	26	25	2.0
	環 境 デ ザ イ ン 学 科	後期	5	35	24	6	5	4.0
		推薦	10	30	30	11	11	2.7
		前期	20	45	45	24	24	1.9
森 林 科 学 科	後期	6	26	26	6	4	4.3	
	推薦	9	15	15	10	10	1.5	

(注) *食保健学科のA O入試は平成24年度入試より廃止されます。

各 学 科 紹 介

生命分子化学科

生命分子化学科は7つの研究室（機能分子設計化学、機能分子合成化学、生命分析化学、生命物理化学、細胞高分子化学、生体物質化学、微生物機能化学）から構成されています。これらの研究室は「化学」に重点をおき、生命現象の解明、機能性物質や有用物質の合成、環境分析などに取り組んでいます。

君たちが入学した後は、実習として1回生で、化学、物理、生物学の実験を行い、基礎的な知識・技術を習得します。次いで、2～3回生でより高度な内容（マイクロデバイス作成、酵素の活性測定、DNAの単離、有機金属試薬による合成、河川の全窒素の定量、タンパク質の化学修飾など）を学びます。もちろん、実習だけではありません。授業でも教養科目から専門科目まで様々な講義を受け、知識と理解を深めていきます。3回生後期に研究室に配属され、研究生活が始まります。生命分子化学科には学生募集人員31名に対して教員は13名もいます（H22年度現在）。個性溢れる教員の指導のもと、まだ解明されていない研究課題に対して寝食を忘れて取り組みます。一生懸命やればやっただけの成長と充実感は確実に得られます。ただし、誰もやった事のない研究なので、成果が必ず得られるとは限りません。長いスパンで見れば、力量の向上は成果に結びつきますが、1年、2年の短いスパンでは努力と成果が結びつかない場合があります。この点が、高校までと大きく異なっています。

また大学時代の友人は一生の財産になります。生命分子化学科では授業、実験だけではなく、新入生合宿ゼミ、鴨畷会（学科の教員、大学院生、学部生の親睦会）など縦横のつながりを広げる場もあります。気合の入った元気な君たちの入学を待っています。



教員と学生の交流の花見

農学生命科学科

「豊かな環境共生社会の創造——環境に負荷をかけない、安心・安全な食料生産を目指して——」を教育研究の指針として、生物多様性を活かした持続可能な食料生産技術及び生物機能の高度利用、さらにそれらの社会経済的側面を総合的に教育・研究しています。具体的には、動植物の新たな機能の開発と効率的な物質生産、作物栽培や家畜飼育に関する新しい技術の開発、作物保護、動物衛生、環境保全・修復、農村政策や農業経営等についての理解を深め、新しい農学とそれに関連した生命科学分野に対応できる幅広い人材を育成するために、植物生産科学コース及び生物機能科学コースの2コースを設けています。

生命環境学部附属農場や京都府の生物資源研究センター、昆虫飼育室等の充実した教育・研究施設を活用して、植物生産科学や生物機能科学に関連する様々な実験、生物生産科学の諸実習、農業経営学の演習が行われています。これにより微生物、昆虫、植物、動物の遺伝子からエコシステム、農村地域の経営や政策までをカバーする幅広い知識から生まれる総合力を養い、食料・環境・生命について深く学ぶと同時に、教員一人当たりでみた学生の少人数教育により、率直な意見交換と家族的雰囲気を持ち味とした研究室運営がなされています。



実習風景。広々とした府大が、ここに 있습니다。

また、定められた単位を修得すれば、中学校教員免許（理科）、高校教員免許（理科、農業）や学芸員資格が取得できます。

食保健学科

食保健学科の特色は、国民の健康の保持・増進、傷病者の栄養管理、生活の質の向上という視点から食物と食生活を取り巻く問題を総合的にとらえ、望ましい食生活とライフスタイルのあり方を解明するための教育研究を行っていることです。従来の食物学の領域で取り組まれてきた教育研究の分野に加えて、新たに人間を対象とするフィールド科学の手法を取り入れ、公衆レベルでの栄養・健康問題にアプローチする分野を導入し、「食物」から「健康」と「環境」へと発展させてきました。

本学科は食品科学、食品安全性学、食事学、栄養学、健康科学の5分野（研究室）で構成され、各研究室が独自の研究を進めながら、相互に連携して「食」と「健康」の関わりを総合的に教育研究できる体制を構築してきました。さらに、特色ある人材(管理栄養士など)を世に送り出すため、臨床や医療関連分野の教育の充実を図るため、京都府及び京都府立医科大学との連携に力点を置いた教育指導を行っています。

このことにより、人体の構造と機能、食べ物と健康等の基礎知識を十分に理解した上で、傷病者を対象とした療養や広い視野で個々人の身体状況、栄養状態に応じた高度の専門知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養指導ができる能力をもった下記に挙げる人材の養成を行っています。



栄養学に関する国際会議で研究成果を発表した1コマ

- ① 傷病者に対する療養のために必要な栄養計画作成と栄養管理ができる人材(管理栄養士)
- ② 地域や学校等における保健管理システムの中で、総合的に栄養関連サービスのマネジメントができる人材(管理栄養士/栄養教諭)
- ③ 新しい食品開発や食の安全管理を行うことができる人材(管理栄養士)
- ④ 学校、地域、職域における食育指導のできる人材(栄養教諭など)
- ⑤ 食糧の生産から消費に至るまでを総合的に理解した人材

環境・情報科学科

現在社会が直面する、「高度情報化」、「環境問題」や「生命現象」にかかわる課題を解決していくためには、自然科学の基礎である数学、物理学、化学、生物学の知識はもちろんのこと、それぞれの学問領域にまたがった知識が必要となります。急速な技術革新に対応し、イノベーションを先導して行く人材として先端科学技術についての学際的な知識を持つ「広い視野を持った理工系スペシャリスト」が必要とされます。

環境・情報科学科では、主・副コース制により、そのような学際的な能力を備えた人材を育成します。2回生から生物、物理、化学、情報、数学の5つの主コースの一つを選択し専門的な勉学を深めるとともに、副コース（学際副コース）では、自分の所属する主コース以外の科目を広く学習することができます。また、教育課程の中で、①自然科学の基礎・普遍性と面白さを体得させる、②情報科学の基礎と面白さを体得させる、③プレゼンテーション能力を高める、④英語力を高める、ことに重点をおいて教育を行っています。3回生の後期からは、各研究室に所属し、密度の濃い研究指導を受けることとなります。卒業生の多くは大学院に進学し、より専門的な研究に取り組みます。または、情報処理・システム関係企業、計測機器、化学、医療、食品メーカー、公務員・教員などに就職し、社会で活躍しています。



授業風景

理工系分野の専門家には、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要です。私たちは、柔軟な発想のもとに思考する創造性豊かな人や、社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発に夢を持っている人を求めます。一般入試では、数学と理科の理解力に判定の重点をおいています。このため、センター試験（600点）に対し、数学と理科の2次試験(800点: 数学400、理科400)のウエートを高くした判定を行っています。推薦入試では、テーマ作文を提出していただき、面接試験と共に、論理的思考力と表現力を試験しています。

環境デザイン学科

環境デザイン学科は、生活環境／生活空間（インテリア・住宅・建築・都市・地域）に関わる専門家・技術者を養成する学科です。

生活環境／空間を、生活者の立場から、調べ、考え、そのあるべき姿（安全で快適、美的な環境）を構想し、提案する力を育成します。また、住居学・建築学に加え、生活美学・ランドスケープデザイン・プロダクトデザインなど、さまざまな視点から総合的・科学的に考え、生活環境／空間の仕組みを解明する学科です。本学科では、生活環境／空間の質の向上を目指し、設計・デザイン手法を用いて問題解決のための提案をします。



環境デザイン実習の作品発表風景

本学科は、少人数の教育・研究環境の下で、学生・教員が一体になって教育・研究に取り組みます。大学院（前期・後期博士課程）では、さらに専門的な教育・研究を深め、より高度な専門家としての能力を育成します。

環境デザイン学科では、住環境・建築コースと生活デザイン・ランドスケープコースの、2つのコースが用意されています。住環境・建築コースでは、住宅・建築・都市・地域に広がる住環境の全体を視野に入れ、その改善・創造を担う能力を持つ人材を養成します。一方、生活デザイン・ランドスケープコースでは、生活用品、インテリア、テキスタイル、ランドスケープなどの生活デザインに関わる研究や制作を通じて、生活の質の向上をめざし、環境にやさしい生活様式の計画と創造に寄与しうる人材を育成します。両コースともに、建築学・住居学を基礎とするカリキュラムにより、卒業後、一級建築士の受験資格（実務経験2年）が取得できます。

就職先としては、住環境学・建築コースでは、住宅メーカー、建築・住宅設備、建設会社、設計事務所、都市計画事務所など、生活デザイン・ランドスケープコースでは、インテリア、ディスプレイ、事務機器メーカー、デザイン事務所、園芸・造園、テキスタイル、シンクタンクなどがあります。加えて、公務員や教員、大学院進学への道があります。

森林科学科

森林は日本の国土の67%を占め、私たちの身の回りの自然環境の大部分を作り、様々な機能を持っています。最近では、地球環境の保全の観点から、大気中の二酸化炭素を減少させる効果も重要視されてきています。

森林科学科は以下の8つの研究室と生命環境学部附属演習林(教育学術研究林)から構成されています。ここでの研究・教育内容を見ると、まさに森林が持つ多様な機能を反映していることがわかります。教育面について未知の課題に積極的に取り組む能力を身につけるため、実験や実習を通して、自分で考え、試行錯誤を通して自ら問題を解決する方法を体得するよう努めています。また、実験・実習科目を多く取り入れています。森林科学科の定員は1学年35人と少なく、これに対して森林科学科を担当する教員の数は16人ですので、特に専門教育が主体となる3、4回生ではマンツーマンに近い教育を行うことができます。また、実験・実習や卒業論文作成のための研究では、学生同士が助け合いながら行うため、学生間のつながりも深まり、卒業後も親交が長く続いています。

1. 森林生理生態学研究室
2. 森林植生学研究室
3. 森林計画学研究室
4. 砂防学研究室
5. 流域情報学研究室
6. 生物材料物性学研究室
7. 森林生物資源化学研究室
8. 森林資源循環学研究室



荒廃山地の山腹工事による森林の復元

カリキュラムとして以下の科目があります。

森林生理生態学、森林保護学、森林植生学、森林資源育成学、森林計画学、森林計測学、砂防学、渓流水理学、森林土木学、流域情報学、木材物理学、木材組織学、木材化学、木質資源利用化学、森林資源循環学、物質循環学、測量学、地理情報科学、森林植物学、材料力学、ランドスケープデザイン論、林政学、森林作業システム学、森林水文学、森林機械学、その他実験・実習

入試科目別 アドバイス

一般選抜二次試験

昨年度の入試問題出題者から受験生の皆さんに向けてのコメントを、主な入試科目別に集めました。出題の形式をはじめ、受験生の皆さんに気をつけていただきたいことなどを解説していますので、参考にしてください。

*以下の文章は主として昨年度までの問題について書かれています。
今年度の予想問題ではありませんので注意してください。

▶ 英 語

文学部

公共政策学部

生命環境学部

【出題のねらい】

昨今、Internetを含むいわゆるITの急速な発展とともに、国際社会において、英語は専攻分野を問わず、コミュニケーションの手段としてますます重要な機能を担ってきています。したがって、どの分野に進むにしても、大学で高度な英語の運用能力を身につけることが要請されています。このような観点から、一般入試二次試験（前期日程）の英語は全学共通の問題を出しています。大学での勉学に必要な基本的な英語力を計るためです。とくべつ難解な問題は出していませんが、高等学校までに修得する英語の教科内容を理解していれば解ける問題です。

【受験生へのアドバイス】

出題形式は、記述式の問題が中心で、全文または部分和訳および内容把握の英文読解問題が3題程度、和文英訳の問題が1題です。

英文和訳、内容理解の問題では、英語の文構造を正確につかみ、文脈にふさわしい単語の意味を的確に選択し、英文の内容を日本語らしい表現に置き換えるようにしてください。そのためには、豊富な語彙と文法の知識が必要不可欠です。英作文で重要なことは、日本語の意味内容を、英語らしく表現することで、単なる直訳では自然な英語にはなりません。正しい綴り字で書くことが求められるのは言うまでもありません。

いずれの問題も、間に合わせの受験対策で解ける問題ではありません。常日頃から、話し言葉、書き言葉を問わず、英語に十分に触れて、英語の直観を養っておくことが肝要です。

また、日本語、英語ともに文字は丁寧かつ正確に、伝えたい内容が読み手に分かるように書いてください。

▶ 国 語

文学部

公共政策学部

【出題のねらいと、受験生へのアドバイス】

国語はすべての学習・研究の基本となる科目です。大学で学ぶためには、言語表現の内容を論理の道筋に沿って理解する力と、自分の考えを適切に表現する力を十分に身につけていることが欠かせません。国語の試験はその力の程度を把握するために行います。

「現代文」の問題では、その理解力と表現力が最も重視されます。問題文の内容について、筆者の使用している言葉の意味を正確に理解した上で、文脈を把握できているかどうかを問う設問が多くなります。解答に際しては、問題文の言葉をそのまま使うのではなく、自分自身の言葉で的確に表現できるようにしてください。借り物の言葉しか使えないのでは、理解していることにはなりません。

「古文」では、文章の筋道や物語の展開などを把握するために、省略されがちな動作の主体を読みとることが大切です。「かの女」などの代名詞や「少将」などの官職で表される人物が誰であるかもつかまねばなりません。また文の組み立ての基本である文法や語法についての知識を身につける事が大切です。古典語は現代語とは意味の異なる場合が多いのですが、基本の意味をよく理解しておけば、場面・文脈によって訳し方がおのずから異なってくることもわかります。現代語に訳した場合、自然な表現になっているかにも注意してください。和歌の約束事などの基本事項や時代背景を理解しておくことも必要です。

「漢文」でも、疑問や反語、二重否定といった語法の特徴をよく理解した上で、全体として何を言おうとしているかを読みとることです。部分的には意味がわかっている、文章全体の方向を読み違えると、結局全く理解できていないことになってしまいます。現代語に訳してみた時、それが不自然であれば、それは解釈が間違っているということです。全体を論理の通った文章として理解することに努めてください。

そして最後に、解答を書く文字は、読み間違えられないように丁寧に。皆さんの実力が十分伝わるように心がけてください。

▶日本史

文学部

【出題のねらい】

原始・古代から近・現代に至るまでの範囲から、政治・経済・文化など広い分野にわたって問題を出題しています。歴史の流れやできごとの背景を考える力を重視し、設問においても大きな流れが捉えられるように工夫をしています。歴史の根拠となる史資料に対する理解も重視しています。また、歴史学科受験生を対象とした記述式の問題では、歴史事実の的確な把握のみでなく、それぞれの事実を有機的に関連づけて、鳥瞰しつつ、それらを適切に表現するという点も評価の対象としています。

【受験生へのアドバイス】

特定の時代や分野に偏ることなく、日本史全体に目を配って勉強を進めることが大切です。そして、単なる歴史用語の丸暗記ではなく、歴史的なできごとの因果関係や背景について理解を深め、大きな流れとして歴史を捉えることを推奨します。また記述にあたっては正確な表記・表現ができることも重視しており、緻密で丁寧な勉強を心がけるようにしてください。

▶世界史

文学部

【出題のねらい】

教科書で学習した内容・範囲を中心に、世界各地の歴史を時代、地域にかたよらず、広い範囲から出題しています。教科書の内容をしっかりと学習しておけば十分対応できる、オーソドックスな出題内容・形式です。

【受験生へのアドバイス】

出題形式は、記述式と論述式を併用しています。

記述式の問題は、歴史的な事件や過去の政治・経済の諸制度、年代や地域、活躍した人物などについて受験生がどこまで正確な基礎知識を持っているかを把握することを意図しています。以上のような歴史的諸事項については、教科書に出ているものを中心に、しっかり理解して覚え、表記できるようにしましょう。

論述式の問題は、特定の地域・時代に関する歴史的な事象について、その歴史的变化・推移、因果関係を受験生がどれほど正確に理解しているか、またそれを明快な文章で説明できるかを把握することを、意図しています。歴史的な事件や事物、制度について大局的な観点から歴史的意義や展開過程を説明させるような出題が多くなっています。関連する人物や年代を含めよく整理して、要点を押さえて説明できるように学習しておいてください。

平成22年度一般選抜試験合格者成績（1）

文学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最高点	最低点	平均点	配 点
日本・中国文学科	前期	28	871.8	749.0	787.3	1200
	後期	4	586.2	572.8	579.6	800
欧米言語文化学科	前期	24	907.0	729.2	783.6	1200
	後期	6	547.1	477.0	504.2	650
歴 史 学 科	前期	31	1067.6	857.2	916.9	1300
	後期	10	694.4	599.8	637.6	800

センター試験と2次試験の総合点による判定です。

公共政策学部はP14、生命環境学部はP15に掲載しています。

▶ 生 物

生命環境学部

【内容と形式】

遺伝子、細胞、個体（植物と動物）そして生態など生物Ⅰと生物Ⅱの全分野から幅広く出題されます。記号やキーワードを選択解答するもの、穴埋め問題、論述問題、計算問題、さらに図表を見て解答する問題等、多彩な問題が出題されます。

【出題者からのコメント】

全範囲について基本的なことを確実に理解しておくことが大切です。生物学用語には、現実の生物界の現象を反映した深い意味があります。単なる用語の暗記だけにとどまらず、教科書や副読本をじっくり勉強し、その用語の意味を生物界における現象と関連づけてしっかり理解することが大切です。様々な形式の問題が出題されますので、重要事項のみを覚えるのではなく、図表の解析や計算問題の練習を積んでおくことも大切です。論述問題については、字数制限内でのポイントを押さえた解答文を書く能力が必要となります。

【出題方針】

生物に関する広い知識を身につけているかを確認するとともに、文章や図表を解釈する能力も評価します。また、論述問題により、限られた字数の中で考えを的確に表現する能力も重視しています。

▶ 化 学

生命環境学部

【出題方針と内容】

生命環境学部では広い範囲の専門分野に分かれて学んで行きますが、物質を扱う学問である化学は多くの分野で重要な基礎となります。そのため、本学の入試問題は高校での化学の基本的な知識が実についているかどうかを試すための出題になるように努めています。出題は化学Ⅰと化学Ⅱの全範囲からできるだけかたよりのないように出題するようにしています。化学Ⅱについては選択内容を履修していない場合にも不利にならないよう配慮します。問題はいずれも高校で学ぶ化学の基本的知識が身に付いていれば解答できるものです。これまで、知識の正確さを問うための選択問題や穴埋め問題、理論的な理解の深さと正確さを試す計算問題、考える力を試すための論述問題を取り混ぜています。また、グラフや実験装置の図を使った問題は知識の正確さと考える力を試すことができるため、しばしば出題されています。

【出題者からのコメント】

すべての分野について基本的なことを確実に身につけておくことが重要です。無機、有機を問わず化合物の構造と性質との関連を理解しておいてください。また、化学反応式も正しく書けるようにしておきましょう。計算問題では公式にあてはめて機械的に計算して解答するのではなく、与えられた数字から何をどうやって導き出すかを、順を追ってわかりやすく記述できるよう十分練習しておくことが大切です。教科書に出ているグラフは必ず頭に入れ、このパラメータを動かしたらグラフはどうなるのだろうか？という考えを巡らせることができるようにしましょう。論述問題では説明の要となる「キーワード」をまず考え、わかりやすく文章化する練習をしましょう。教科書に出ている実験装置の名称や使用法は必ず頭に入れましょう。発展内容や欄外のコラムにも目を通してください。最後に、高校までに身につけた化学の知識は必ず大学に入ってからの学力の伸びにつながります。日頃から新聞の科学欄や科学雑誌、テレビの特集番組で最新の科学の情報にも目を向けるように心がけてください。

平成22年度一般選抜試験合格者成績（2） 公共政策学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最高点	最低点	平均点	配 点
公 共 政 策 学 科	前期	37	745.3	620.8	660.4	1000
	後期	9	819.1	661.2	713.1	1000
福 祉 社 会 学 科	前期	35	774.1	618.4	653.4	1000
	後期	8	694.1	641.5	664.8	1000

センター試験と2次試験の総合点による判定です。文学部はP13、生命環境学部はP15に掲載しています。

▶ 物 理

生命環境学部

【内容と形式】

物理現象の基本的な内容を問う問題と応用問題が出題されます。標準的な問題が多いので、教科書を十分に学習していれば、問題を解くことができます。答えだけを書けばよいという問題は少なく、計算過程や考え方を記述する問題がほとんどです。多くの計算が求められる問題もあります。

【出題者からのコメント】

基礎的レベルから標準的レベルまでの問題を、正確に答えられるようにしましょう。物理現象を十分に理解していれば、応用問題も解くことができます。多くの練習問題を解いて、理解を深めましょう。

解答の考え方および計算を丁寧にみるので、式や図を用いて解を誘導する過程を簡潔にまとめる練習をしましょう。

物理法則を暗記するのみでなく、法則の内容を理解し、その背景を知ることなどにより、様々な物理現象が分かり、物理に関する問題を解くことができます。大学における専門教育の基礎となるので、しっかりと学習しておくことが望まれます。

【出題方針】

基本的な知識を問う問題と物理現象の理解度を問う応用問題を適度にバランスして出題します。応用問題では、基本的な知識をもち、物理現象を正しく理解していないと正解が得られません。応用問題は難問ではなく、標準的な問題としています。

生命環境学部

▶ 数 学

【内容と形式】

教科書の内容が十分理解できているかを試す問題を全範囲から出題しました。大問3～4題程度を出題しました。解答の過程も採点対象とできるようにするため、すべて記述式の問題としました。

【出題者からのコメント】

計算量の多い問題や基本的な事項を組み合わせた問題などを通じて、基本的な内容に対する確実な理解がなされているかを試しました。また、場合分けが必要となる問題などを通じて、論理的思考力を試しました。

完全には解答できていない場合でも、答案の記述内容に応じて部分点をつけました。複数の小問からなる大問では、各小問を解くことを通じて、引き続き小問が解答しやすいように誘導している場合もありました。

【出題方針】

問題のレベルは教科書の章末問題程度が、それよりやや高めに設定しました。環境・情報科学科では、出題範囲の内、数学Ⅱ、数学Cに該当する問題を適度に多めに出题する場合もありました。

平成22年度一般選抜試験合格者成績（3） 生命環境学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最高点	最低点	平均点	配 点
生命分子化学科	前期	26	1 1 8 3.0	1 0 1 8.8	1 0 8 3.9	1 7 0 0
	後期 *	8	8 4 8.1	7 6 1.1	8 1 3.3	1 0 0 0
農学生命科学科	前期	32	1 0 3 9.3	8 7 6.1	9 4 1.1	1 4 0 0
	後期 *	9	5 4 2.6	4 7 7.2	5 1 5.6	6 0 0
食 保 健 学 科	前期	19	1 1 3 5.8	9 2 1.2	1 0 1 0.3	1 5 0 0
環境・情報科学科	前期	23	8 3 7.4	7 2 2.6	7 6 0.1	1 4 0 0
環境デザイン学科	前期	26	6 5 7.4	5 1 7.3	5 5 8.1	8 0 0
	後期	6	6 1 0.3	5 2 0.1	5 6 0.0	8 0 0
森 林 科 学 科	前期	24	1 0 6 6.6	8 3 8.8	8 9 8.1	1 4 0 0
	後期 *	6	7 1 0.2	6 8 8.8	6 9 9.4	9 0 0

*は、2次試験を実施しない。*以外は、センター試験と2次試験の総合点による判定です。文学部はP13、公共政策学部はP14に掲載しています。

本学の就職活動支援

学務課学生担当

— 就職活動、～夢と熱意をもって～ —

2008年秋以降の世界同時不況による急激な景気悪化により、わが国の雇用情勢は、依然、厳しい状況にあります。

こうした状況のもとで、文部科学省では、大学設置基準を改正し、大学が教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に関する指導等に取り組む体制を整えることを義務付けました。

このような中での本学における平成21年度卒業生の就職状況の概要を、ご紹介いたします。

①就職希望者の就職率は、学部生：86.8%、大学院生：85.1%

*大学院生は14年度に次ぐ高水準。学部生は連続、前年度を下回る状況

②男女別では、女子学生は学部・大学院とも前年度比で微減、男子学生は大学院生では前年度を大幅に上回り、学部生は大きく下回る状況

③就職先は、10年ぶりに民間が8割を切り、公務員・教員が2割を超える状況

就職活動は「自分の夢探しの第一歩」と言われます。また、優秀な人材確保は企業にとっての最重要課題ともなっています。

皆さんが就職活動をされるときには、強い気持ちと熱意を持って臨まれ、是非、夢を実現していただきたいと願っています。

学生部におきましては、就職活動をされる学生の皆さんを励まし、支援するため、就職講座など毎年様々な企画に取り組んでいます。

— 就職活動をサポート —

就職活動においては、エントリーシートの書き方、面接の受け方などの基礎的なスキルを身につけるとともに、インターネット、企業情報誌、会社訪問等により様々な情報を得ていくことも必要です。

学生部では、学生の皆さんが就職活動を円滑に進められるよう、以下の就職支援活動を行っています。

各種セミナー

- ・就職講座（右の表は昨年度開催内容）
- ・公務員・教員採用試験説明会
- ・学内企業研究セミナー

トレーニング

- ・面接対策講座
- ・グループディスカッション対策講座

きめ細かな対応

- ・就職相談・エントリーシート相談
- ・就職情報室等での就職情報提供
- ・大学推薦状の発行
- ・就職担当教員を通じての情報提供
- ・OB・OG訪問のための相談

— 就職活動のバイブル —

就職活動の方法、データ、先輩の体験などをまとめた「就職活動の手引」、「就職活動アンケート集」を毎年作成し、配付しています。

主な就職先（平成22年3月卒業生）

一保堂、タキイ種苗、サカタの種、日立製作所、ヤマダ電気、山崎製パン、オリエンタルベーカリー、日清食品、明治製菓、両備システムズ、タマホーム、メディコン、アドバンテック東洋、武田病院グループ、堀川病院、日本医療事務センター、N T T、大阪国税局、京都府庁、奈良県庁、岡山県庁、高知県庁、京都府警、滋賀大学、神戸大学、陸上自衛隊、読売広告社、J T Bトラベランド、J A全農、西鉄旅行、京都銀行、滋賀銀行、三井住友銀行、京都信用金庫、京都市役所、宇治市役所、舞鶴市役所、その他社会福祉施設等

■平成21年度に行った就職講座

月 日	内 容
①8/7	オリエンテーション 講演「自分エンジンを探せ!そして活かす夏へ」 講師:キャリアコンサルタント 本田勝裕 氏
②10/1	講演 「インターネット活用法!」 講師:(株)毎日コミュニケーションズ 高橋誠人 氏
③10/8	講演 「業界研究・企業研究の進め方」 講師:(株)リクルート 小林沙緒里 氏
④10/15	「筆記試験対策講座」 (株)学研メディコン 宇野朗宏 氏
⑤10/22	講演 「エントリーシート対策」 講師:(株)ディスコ 大阪支社 山砥敏宏 氏
⑥10/29	「就活に必要なビジネスマナー」 講師:学校法人 大和学園 山本清美 氏
⑦11/12	講演 「面接について」 講師:人事コンサルタント 石田秀朗 氏
⑧11/19	就職活動体験報告会 報告者:各学科(専攻)
⑨12/3	就職模擬試験 (株)学研メディコン

企業研究 セミナー	11/26・11/27	企業研究セミナーin 京都府立大学 (業界を代表する24社参加)
--------------	-------------	----------------------------------------

GD講座 面接講座	10/27・11/17	グループディスカッション 講座・模擬面接講座 講師:エン・ジャパン(株)ほか
--------------	-------------	----------------------------------------------

*その他にも、学科(専攻)別の企画や、教員、公務員採用試験説明会などを実施

キャンパスライフ 在学生の声

文学部

日本・中国文学科 3回生 K・T

現在の日本・中国文学科が設けられたのは、ちょうど私が入学した年でした。そのため、学科の違いという壁があるのではないかと不安を感じていました。しかし先生方・先輩方は、何の隔たりもなく私達を迎えて下さり、今ではふとした世間話に花を咲かせることもあります。

私の所属する学科は、その名の通り日本文学・中国文学について学ぶ学科です。その他日本語学や和漢比較といった分野を専攻することができますが、入学してすぐに自分の研究分野を決める必要はありません。「文学の研究って何をやるの?」という疑問を持つ人は多いと思います。1回生から2回生の講義では、そういった基礎的なことから少しずつ専門色が深まっていくので、時間をかけて自分の専攻を考えることができます。

また、関西地区以外から京都に来た方や、中国人の先生・留学生の方も在籍されています。文学だけでなく様々な人と出会うことができるのは、学生生活における大きな魅力の一つだと思います。

公共政策学部

福祉社会学科 3回生 O・Y

私はテニスサークルに所属し、勉強とサークルを両立して大学生活を送っています。大学では、大人数で受講する講義と少人数制で積極的に勉強に取り組むゼミがあります。特に私たちのゼミでは、テーマを自分たちで決め、レジュメをもとに発表して意見交換を行っています。そこでは学びの意識も自然と生まれ、楽しくゼミに参加することができています。また私は社会福祉士の資格をとるための学習も行っています。これから実習に行く予定ですが、そのことによって大学での学習を実践で学ぶことができるので、不安もありますがとても楽しみです。それ以外に日常ではテニスサークルに参加し、幅広い上下関係の中で自分を刺激してくれる大切な人との交流や、社会に出るためにアルバイトも行っています。今、三回生ですがこうした体験によって、毎日新しい自分を発見していくことができています。そして「この大学で本当に良かった」という思い出を今、作っています。

生命環境学部

環境・情報科学科 3回生 M・Y

環境・情報科学科は化学・生物・物理・情報・数学といった理系科目全般を学べて、それぞれの科目で実験を経験できる、幅広い事を学べる学科です。1、2回生のうちは研究に繋がる重要な基礎内容について学び、3回生ではそれぞれのコースに配属され、自分の興味のある科目についての研究ができます。

学科の雰囲気は、一学年の人数が20人後半しかないという少人数制で、みんな明るくすぐ仲良くなれます。幅広い交友関係を築くためにクラブやサークルに入る学生も多く、それぞれが楽しい日々を送っています。また学科教員との距離も近く、専門科目についての深い話しや、研究について興味深い話しがたくさん聞けるのは一つの楽しみではないでしょうか。

小規模だからこそ、学生同士の繋がりが強く、大学側も学生をしっかりサポートしてくれる、こんな府大の素晴らしさを一人でも多くの人に実感してほしいです。

生命環境学部

森林科学科 3回生 I・H

ちいさな大学なんですよ、京都府立大学ってところは。高校の時想像していた‘大学’とは違うけれど、想像以上に良い大学に違いない。林科の学生としても恵まれていますね！フィールドワークを重視したカリキュラム、面倒見の良い先生・先輩方、よく一晩中語り明かす学友たち…どれもこれも少人数の良さが生きている。さらに大学の周りにはお隣りの府立植物園をはじめ、6つの演習林、京都の山、川…と我々の扱う対象は限りなく広がっている。

“学生”ということクラブでもバイトでも、学ぶ事は沢山あると思う。僕は文化会では最大規模の合唱団に所属し、ここでも一生もの人間関係を築く一方で森なかま、バドミントンサークル更にバイトも欲張りにこなしてます。

目的を持って大学を選ぶもよし、やりたい事を見つけるために大学に来るのもよし、いずれにせよこじんまりした特異な環境で学生生活を充実させるには十分な大学なんです。

クラブ・サークル紹介

●洋弓部

こんにちは！洋弓部です。洋弓と聞いてあまりイメージがわからないかもしれませんが、洋弓とはアーチェリーのことです。みなさんも一度はテレビなどで目にしたことがありますか？アーチェリーはオリンピックでも話題になるスポーツです。

洋弓部は、現在20名程で活動しています。ほとんどの部員が大学から始めていますが、50メートル離れた的の真ん中を射抜けるようになります。矢を放つ瞬間はとても爽快な気分になりますよ！初心者でも全国大会に出ることができるスポーツでもあります。

体育会系のクラブにしては練習量もあまり多くなく、主に平日の夕方の練習1回と土曜日の練習1回の週2回です。春と夏には合宿があります。多くの部員が学問やアルバイトをクラブ活動とも両立させ、充実した大学生活を送っています。また男女問わず、先輩後輩問わず、部員同士仲がよくとても楽しい部活です。

もちろん楽しいだけでなく、将来社会人になるためのいい勉強にもなります。ぜひ大学では自分の興味があることにどんどんチャレンジしてみてください。クラブ・サークルに入ってよかったと将来思えるようにいろんなことに興味を持ってみてください。

アーチェリーは個人競技と思われるかもしれませんが、実はチームの合計点を競う団体競技でもあります。なので、仲間を信頼し、お互いを助け合う気持ちが大事になってきます。体力面でも精神面でも驚くほど成長させてくれます。矢を射つという単純なスポーツですが、奥深いスポーツでもあり、男子も女子も隔たりなくできるスポーツです。おそらく大学でしかアーチェリーをする機会はほとんどないと思います。ぜひみなさんも自分の弓での的を射抜く爽快感を味わってみませんか？アーチェリーに興味がある方もない方もいつでも遊びにきてくださいね。笑顔でお迎えいたします。部員一同、みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

(文：H・Y 洋弓部 主将 生命分子化学科 3回生)



●ローズサークル

皆さんこんにちは！京都府立大学ローズサークルは、昭和32年に創部したとても歴史あるサークルです。植物の栽培のなかでも「ばら」に特化したサークルは全国の大学でもとてもめずらしいのではないかと思います。

私たちの主な活動は、年に二回、ばらの咲く時期である春と秋に開催する「ばら展」へ向けて、学内のばら園で育てているばらの世話をすることです。ばらの花はとてもデリケートなので、肥料や農薬散布など、やらないといけないことが多く大変ですが、大輪の綺麗なばらの花がたくさん咲いたときには、そんな苦労も全部忘れてしまうくらいの喜びがあります。また、「ばら展」の時期になると、開催を成功させるためにみんなで一つになって準備・運営に取り組みます。私たちの「ばら展」は、毎年の大学行事のひとつとして、今年の春には106回目を数える程になりました。近隣の住民のみなさんや、いつもローズサークルを支えてくださっている皆さんに喜んでいただけるより良い「ばら展」になるよう、部員全員で毎週ミーティングを重ねています。昨年度末には、長年のローズサークルの活動に対して、本学学長より表彰状をいただきました。



他にも、サークルOB・OGの皆さんと農業体験を兼ねた遠足へ野山に行ったり、京都のばら愛好者の方々と一緒にばらについての勉強をしたりしています。ばらの世話のやりかたも先輩方から教えてもらえるので、ばらや植物に関する知識や栽培経験がなくても大丈夫です。また、作業は主に授業の空き時間に行うので、アルバイトや他部活との両立も可能です。これから植物について学ぶ皆さんも、全く関係ない、という皆さんも、みんなで綺麗なばらの花を咲かせる喜びを味わってみませんか？部員一同皆さんをお待ちしています！

(文：Y・H ローズサークル 部長 公共政策学科3回生)

新入生歓迎夜祭 開催

京都府立大学では毎年4月に新入生歓迎夜祭というお祭りを開催しています。

このお祭りは新入生に心からの歓迎の意と大学の雰囲気伝え、また上回生との交流を持ってもらい、より早く大学生活に馴染んでもらう上で欠かせない行事となっています。

お祭りでは構内にクラブやサークルなどによる模擬店が並び、たこ焼きやフライドポテト、焼きそばなど様々な食べ物が売られています。模擬店によっては、目を引く工夫も随所に見られ、お祭り気分が味わえるようになっています。また施設内では美術部や写真部の展示会やギターマンドリンクラブなどの音楽系クラブの公演会なども行われており各団体の工夫を凝らした催しがされています。

祭り期間中はステージが体育館前に特設され、ステージ上では様々な演目がされています。軽音楽部のコンサートをはじめ、合気道部の模擬演舞、フラガール、ダンスカンパニーのダンス披露、応援団の発表など各部、サークルがその特色を活かした個性的な出し物を行っています。学内の団体だけでなく外部の方にも出演していただき、今年は京都を中心に活躍するダンスグループの彩京前線にも出演していただきました。ステージの観客席は毎回たくさんの観客で賑わい、ステージの催しはお祭りの目玉として最も盛り上がるものとなっています。



また来場してくれた方に参加してもらう企画として、大学構内に置かれたチェックポイントを回るスタンプラリー企画、新入生と上回生が優勝賞品の焼肉券を目指し協力してクイズやゲームに挑戦する「目指せ！焼肉」企画、他にもお菓子を指定された重量だけつかみ、ピタリ賞だと豪華景品が当たる企画、さらに、1等にはディズニーペアチケットがもらえる「新歓ジャンボ」といった、新入生だけでなく在校生も一緒に楽しめるような試みもしています。

このように毎年様々な企画が行われ、たくさんの新入生の方が参加してくれています。

私たち実行委員会も新入生歓迎夜祭をより良いものとし、来場者に楽しんでいただけるよう毎回創意工夫をして努力しております。機会があれば秋に開催される学園祭・流木祭にぜひ足を運んでいただき、楽しんでいただけたらと思います。

(文：U・T 流木祭・新歓夜祭実行委員会委員長 公共政策学科3回生)



卒業生の声

心の楽園

文学部文学科西洋文学専攻 平成20年3月卒業

文学研究科英語英米文学専攻 平成22年3月博士前期課程修了 N・M

「きのう大学に遊びに行ってきました。6年間通ったからもう家みたいに落ち着いて…」(私) 「えーっそれは言い過ぎやろ」(生徒A) 「大学って遊びに行けるん!?!」(生徒B) 「なんで6年間なんですか!?!」(生徒C) 3月に院を卒業した私は、4月から府立高校で常勤講師をしています。生徒たちはとにかく元気。30度を超えてもクーラーのつかない教室で、6時間目の授業でも、いつも良すぎる反応。授業を面白く盛り上げてくれます。暑い暑いと言うから、「私も暑い!」と言うと、前の席の子がうちわで扇いでくれる。授業後に廊下で会うと「先生お疲れ!」と挨拶してくれる。裏が山なので、窓を開けて授業しているとしょっちゅう自然の来客もあります。大きな熊蜂、見るとぞっとする足の長いゲジゲジ。生徒と一緒にギャーギャー怖がり、勇敢な生徒が出してくれます。

今私が英語を教える楽しさを実感することができるのは、府大での6年間の学生生活があったからこそだと思います。数々の作品との出会い。様々な視点から一つの作品に向き合い、知識を深めじっくり味わう面白さを学びました。登場人物のせりふや心情描写の中には、今の私が生きていく中でのヒントもたくさんあります。これからも作品を読んだり演劇を観て、心の豊かな人になりたいです。また図書館で英字新聞を読んだり、積極的にネイティブの先生に論文指導をお願いすることで、英語力を磨くことができました。専門教科のプロとして、それ以外は同じ目線で、生徒の前に立ち生徒と向き合っていきたいです。そして素晴らしい人たちとの出会い。文学に造詣の深い先生方、楽しいことが大好きで今も仲良しの西文の友人達、個性豊かな様々な年齢の研究室の仲間。部活、体育会活動に打ち込んだ時間、辛かったこともあったはずだけれど、今友人と集まって思い出すと笑いが絶えません。いつでも遊びに行ける府立大学、「また来てください。困ったときは必ず、それ以外もいつでも」と言ってくれる先生方、頼りにしています!!

現在の仕事、府大の思い出

福祉社会学部福祉社会学科 平成22年3月卒業 Y・N

私は現在大阪府にある女子少年院で法務教官として勤務しています。

法務教官とは、少年たちがなぜ非行に走る事となったのか、少年たちに必要なことは何なのかを一緒に考え、少年が自分の力で生きていくための手伝いをする仕事です。

少年院は教育の場であると同時に収容の場でもあります。一時の気のゆるみで少年や職員の身が危険にさらされてしまうこともあるため、常に厳正な勤務態度が求められます。また、日頃から少年の手本となるような生活態度でなければ、少年に指導はできません。少年を指導する上で「新人」という言葉は通用せず、新人だからと中途半端なことをしては少年の不利益にしかありません。自分自身の無知と無力さを痛感する場面もすでに何度もあり、毎日が勉強です。

少年は良くも悪くも素直で、教える立場ではありますが、少年から学ぶことや気付かされることは多く、大学を卒業してもまだまだ学ぶべきことはたくさんあるのだと実感しています。

京都府立大学での4年間はとても有意義なもので、学業に部活動にと充実した日々を過ごすことができました。講義やゼミで学んだことは現在でも勤務する上で欠かせない知識となっており、福祉に限らず心理学や社会学、教育学など幅広く学ぶことができたため、一つの物事について様々な角度から考える手助けとなっています。部活動を通して得たものも多く、基本的な体力だけではなく他者の考え方を受け入れることの大切さなども体験を伴って学ぶことができました。

在学中は目の前のことだけで精一杯でしたが、振り返ってみると本当に多くのことを経験し、学ぶことができたのだと感じます。同時に、支えてくれる人々の存在の大きさにも気付くことができた4年間でした。

良い経験であれ悪い経験であれ、活かすことができるかどうかは自分次第です。大学での経験を無駄にすることのないよう精進していきたいと思っています。

※福祉社会学部は平成20年度から公共政策学部に変更されました。

夢を具体化するために

農学部農芸化学科 平成9年3月卒業

農学研究科生物機能学専攻 平成11年3月博士前期課程修了 F・H

(黄桜株式会社 勤務)

「何かゼロからモノを造りだす仕事がしたい。」高校生のころ、漠然とそんな事を考えていました。でも、何を造りたいのかは自分でもわからないまま、ただバイオテクノロジーという言葉に惹かれ、平成5年に京都府立大学農学部農芸化学科に入学しました。入学後は、運動神経の悪い私が何を間違ったのかバドミントン部に入部し、そこでお酒の洗礼を受け、アルコールがみんなを楽しくすることを覚えました。今でも先輩・同期・後輩の笑顔とともにその時代が思い出されます。またその頃に、後に学士1年、修士2年の計3年間お世話になる渡部教授の応用微生物学講義を受講する中で、微生物の世界の奥深さにふれ、微生物発酵に関わる仕事がしたいと思うようになりました。

4回生になって研究室に配属になってからも、微生物や遺伝子の世界に益々惹かれていき、次はどんな発見があるのかと、ワクワクしながら日々研究をしておりました。そんな学生生活を過ごすうちに、あーいだった私の夢は「モノ造りの中でも、お酒のように人を楽しくするモノを造りたい。」、更には「微生物の持つ未知の力で、世界にどこにも無いお酒を造りたい。」というように、だんだん具体的なものになっていきました。

その後、伏見の日本酒メーカーである黄桜に入社出来たのも、自分の目標が明確化していたからだと思います。黄桜入社後は、醸造部というお酒造りの第一線で、厳しくも優しい先輩方からモノ造りの厳しさを教えていただきました。昨年の9月に研究所へ異動になってからも、現場と研究室の往復で忙しくも楽しい毎日を送っております。今あらためて思うと不思議なものですが、学生時代に自分が心から面白いと思うものに出会えたからこそ、自分が夢への第一歩を踏み出せたのかなと思います。また、学生時代から社会人を含め、現在まで常にいい人達と縁することが出来たことで、自分が今もその夢を持ち続けられているとも思います。今はまだ世界に類を見ないお酒を生み出せてはおりませんが、必ず出来ると信じています。なぜなら、人の世界も微生物の世界も、可能性は無限大ですから。

大きく学べ

人間環境学部環境情報学科 平成20年3月卒業

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 平成22年3月博士前期課程修了 U・S

(富士シール株式会社 勤務)

高等専門学校で5年間化学を専攻していた私は、その間で、利用価値が明確な工学的化学から、利用価値が無限大な理学的科学へと興味が移っていきました。そこで、就職よりも大学への編入学を選択し、さらには化学ではなく、自分に取ってより神秘的だった生物学を選択し、ほとんど無知な分野へと入り込みました。そこででの勉強は、基礎知識のない私にとってはとても大変なものでしたが、自分が今まで意識した事のない視点からの勉強はとても有意義なものでした。学部時代は、ただ知識を取り込むだけで精一杯でしたが、その後大学院へも進学し、研究という形で植物分子生理学に取り組むようになってからは、より一層生命の不可思議さに触れ、生命の神秘性はその複雑性によって構成されているんだな、という感覚にまで至れた事は私に取って大きな学びになったと感じています。

このように私は、京都府立大学での生活のほとんどを勉強と研究に費やしてきましたが、幸いにも就職活動を乗り越えて就職もできましたし、頼もしい仲間ともそれなりに会える事も出来ました。また、何よりも自分が選んだ分野で納得できる答えを見つけるまで研究が出来た事は、非常に意義深いものであると思っています。

つまりは大学に進学するなら、「何を学びたいか。」それに尽きると思います。私のように勉学でもいいと思いますし、クラブでもサークルでもその他の活動でも、何からでも学べる事は大量にあると思います。社会人と違って大学生は何事も自分のペースで学べると思いますので、その中で自分がどういう意識で取り組むか、それによって大学生活の面白みは変わってくると思います。また学びたい事が特になければ、大学に入ってから自分が本当に学びたい事を探してもいいと思います。大学生活を終える時まで自分の学びたい事が見つければ、その発見は自分の中ですばらしい体験になるとも思います。

※人間環境学部と農学部は統合されて、平成20年度から新たに生命環境学部が設置されました。

大学院の人間環境科学研究科と農学研究科は統合されて、平成20年度から新たに生命環境科学研究科が設置されました。

ニ ュ ー フ ェ ー ス

文学部 日本・中国文学科 准教授 岸本 恵実 (きしもと えみ)

〈主な研究領域〉 16・17世紀キリシタン資料による日本語史研究

ザビエル来日から約百年間の日本はキリシタンの世紀とも呼ばれ、ポルトガル人を主とする宣教師たちは日本語を学び、学校を作って日本人に教会公用語のラテン語を学ばせました。このような文化接触から生まれた様々な書物、特にラテン語・ポルトガル語・日本語対訳辞書をもとに、当時の日本語について研究しています。

四百年前、宣教師たちもミヤコと呼び、模範的な日本語が話されていると書き記したここ京都で、教育・研究できることを嬉しく思っています。

文学部 歴史学科 講師 藤本 仁文 (ふじもと ひとふみ)

〈主な研究領域〉 日本近世史

(財)郡山城史跡・柳沢文庫保存会(奈良県大和郡山市)より異動してきました。以下の2つのテーマを中心に研究に取り組んでいます。1:近世上方を研究対象に、幕府と藩あるいは国家と地域の関係に注目して、幕藩体制の特質や近代国家成立の歴史的前提を解明する。2:18世紀における政治・社会の仕組みの転換を明らかにし、日本における18世紀の歴史的位置を解明する。よろしくお願いたします。



公共政策学部 公共政策学科 准教授 奥谷 三穂 (おくたに みほ)

〈主な研究領域〉 環境政策・文化政策

京都府職員から公共政策学部に着任しました。長く環境行政に携わる中で、NPOや地域住民との協働による環境政策のあり方について研究するため、大学院で学びながら勤めてきました。今日の行政課題は環境問題に限らず複雑に絡み合っており、より根本的に、人間としての生き方や価値観のあり方から、社会の仕組みを統合的に捉え直す必要があると考えています。これまでの経験を生かしながら、皆さんと共に学び合っていきたいと思っています。



生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 教授 南山 幸子 (みなみやま ゆきこ)

〈主な研究領域〉 活性酸素・フリーラジカル病態と疾患予防、食環境安全性学、アンチエイジング

活性酸素・フリーラジカルは紫外線や放射線などで産生されることがよく知られていますが、生体内でも様々なところで作られています。過剰に産生されたフリーラジカルは様々な生体毒性を示します。この結果、病気として現れることとなります。要するに毒消しの抗酸化物質とのバランスにより病気や老化の現象が起こるというわけです。環境ホルモンなども活性酸素による酸化ストレスが関与していることがわかっています。最近の若者の精子数は激減しており、これも悪い食環境や添加物による酸化ストレス障害だとされています。このような生体毒性をより早期に評価し、抗酸化食品の摂取などで種々の慢性的な疾患を予防することができます。このようなコンセプトのもと男性不妊による少子化問題、老化、生活習慣病など多くの問題を解決すべく研究をしています。



生命環境科学研究科 環境科学専攻 准教授 **宮藤 久士** (みやふじ ひさし)
 <主な研究領域> 木質バイオマスからのエネルギーおよび有用ケミカルス生産、森林資源循環学

地球規模でのエネルギー・環境問題が取りざたされる中、カーボンニュートラルで持続可能な資源として木質バイオマスが注目されており、化石資源代替として木質バイオマス資源の利用促進は、極めて重要な課題であります。そのような木質バイオマス資源から、バイオ燃料や有用ケミカルスを生産しうる化学変換技術について、研究を進めていきたいと思っております。得られる研究成果は、低炭素社会や資源循環型社会の構築に貢献しうるものであると考えております。



生命環境科学研究科 環境科学専攻 助教 **長島 啓子** (ながしま けいこ)
 <主な研究領域> 森林計画学、景観生態学、森林生態学

持続的な森林管理を行うための手法を提案することを目指した研究をおこなっています。人工林の管理放棄・再造林放棄、広葉樹林化など森林管理と関わる諸課題は、林分レベルでデータを取得し現象の解明をしつつも、実際の管理手法は市・県・地域レベルで議論しなければならないことが多くあります。そのため、現地調査による森林生態学的研究（林分レベルの研究）と地理情報システム（GIS）を用いた景観生態学的研究（地域レベルの研究）の両技術を駆使して研究を行っています。



イベント情報

京都府立大学 桜楓講座（秋の部） どなたでも参加できる公開講座です

最近のトピックを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野について分かりやすく解説します。

秋の部は公共政策学部と生命環境科学研究科から2講座で開催。

Cコース 10/30（土）「意志の弱さとセルフコントローラーなぜ計画は挫折するのか？」

公共政策学部准教授 石田 正浩

Dコース 11/13（土）「木はどこまで高くなれるのか？」

生命環境科学研究科教授 池田 武文

時間 両コースとも10:00～12:00

場所 本学合同講義室棟

リカレント学習講座

「エーリッヒ・ケストナーで学ぼう ドイツの文学と社会」

担当 文学部欧米言語文化学科ドイツ言語文化教員及び共同研究員

場所 本学合同講義室棟

期間 9/18、9/25、10/2、10/9の各土曜日（全4回）

時間 各回13:30～16:00

受講料 1回1,000円（全4回で4,000円、テキスト代を含む）



※詳しくは大学までお問い合わせください。

企画室：TEL.075-703-5147 FAX.075-703-5149 E-mail kikaku@kpu.ac.jp

教員奮闘記

歴史と地理の交差点

文学部歴史学科 上杉 和央 准教授

私の専門分野は、「歴史地理学」です。誰もが知っている「歴史」と「地理」ですが、両者が併記される「歴史地理学」となると、あまり馴染みがないと思います。ただ、たとえば「710年に平城京ができた」といった理解には、710年という時間（歴史）と、平城京という場所（地理）が関わっていますよね。このように、あらゆる歴史的な出来事には場所が関わります。逆に、現在あるすべての場所には歴史的な変遷が伴っているとも言えます。歴史地理学とは、このような「歴史と地理の交差点」に注目していく学問です。

研究では、文献史料や古地図、発掘成果などを活用して調査を進めていきますが、とくに重要なのは現地調査です。地域の景観の中には、過去の痕跡を示すたくさんの資料（地域遺産）が眠っています。路傍にたたずむ地蔵や石碑、田んぼの形はもちろんのこと、ちょっとした土地の高低差なども、ときには重要な証言者となります。そんな時、私は「歴史地理」の探偵になるのです。

景観から何を読み取るか。そこには、独特の作法があり、訓練が必要となります。そのため、学部生や大学院生と一緒に、京都市内をはじめ、熊野古道や沖縄など、さまざまな場所へ調査に出かけています。時には8時間以上歩き続ける苦行になることもあります。その分、得られる成果も大きく、足の痛みとともに現地調査の重要性を再確認する機会となります。

面白いことに、景観調査の作法を身に付けた後であっても、同じ場所から持ち帰る内容は、学生それぞれで異なります。人それぞれが持つ個性が反映されるためですが、そこを強制的に統一するようなことはしません。むしろその個性を伸ばすように助言します。各地の景観がその土地の歴史に沿って多様であるように、調査者自身のセンスも多様であってよいはず。そのような多様性を認めつつ、異同を考えていくこと。これが地域や景観に対する、そしてその地域をまなざす人々に対する、歴史地理学的研究の基本姿勢だと考えています。



トピックス

☆生命環境科学研究科応用生命科学専攻の佐藤茂教授が園芸学会賞を受賞

長年にわたる研究の成果として「カーネーションの老化誘導におけるエチレンの分子機構の解析と利用に関する研究」により、平成22年度園芸学会春季大会において、園芸学会賞を受賞されました。

☆生命環境科学研究科応用生命科学専攻の桑波田雅士准教授が平成22年度日本栄養・食糧学会奨励賞を受賞

「栄養状態によるアルブミン合成の調節機構に関する研究」により、第64回日本栄養・食糧学会大会において、奨励賞を受賞されました。

府大広報 No.164 -入試特集号- 京都府立大学広報委員会 2010.7.24 発行

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL.075-703-5904 FAX.075-703-5149
Email kikaku@kpu.ac.jp